

令和元年度 宇陀市立榛原中学校 自己評価書（学校経営）

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目	評価指標	評価	成果と課題	課題の改善方策等
II 学 校 経 営 に 関 す る も の	(1)組織運営	①学校経営目標・方針	・学校経営目標の明確化	・明確な学校目標や経営方針を示したか	B↑	●学校目標、経営方針及びグラウンドデザインを新たに示した。年度当初に職員に示し、確認している。 ●学校だよりにも「学校教育目標」や「目指す学校像、生徒像、教員像」を掲載し、周知を図っている。保護者アンケートで知っていると解答した保護者は65%と若干ではあるが向上した。 ●学校目標の具現化に向けた校務分掌を目指し、特定の教員に仕事が集中しないよう努力している。 ●毎週水曜日を定時退庁日としている。徹底を目指したい。 ●職員会議の時間短縮につながった。 ●いじめや不登校の情報交換は職員会議等で行っている。4名のケース会議を開催し関係機関との連携を図った。市教委や適応指導教室とも連携し、不登校支援を進めている。不登校生徒は、昨年度より減少している。	○学校目標の具体化をさらに進め、各分掌の取組につなげるとともに、学校評価の項目と連動させながら取組を進める。 ○部活動の休養日と連動し、教職員の業務軽減を図る働き方の工夫も必要。抜本的な改革を進めることが大切が問われている。 ○ライフ、ワークバランスを整える。 ○教職員のストレスチェックを積極的に進める。 ○校務を明確にし、それぞれの仕事内容を分かりやすくし、実際に行動しやすいように校務分掌の見直しをさらに進めていく。 ○各分掌会議や各委員会を開催し、企画委員会を中心に連携体制をつくり、早期発見・早期対応ができるようにしたい。
			・学校経営の方針を教職員に周知したか	B↑			
		②校務分掌等の連携業務軽減	・校務分掌の適正化	・仕事量や業務の関連を考慮した校務分掌とすることができたか	B↓		
			・業務の改善と軽減	・定時退庁の周知を図ったか	B		
		③会議の運営	・企画委員会の改善	・企画委員会で熟議することにより、職員会議の改善につながったか	A		
			・各種会議の設定と定例化	・いじめ対策・不登校対策特別委員会を定期的に開催できたか	A		
	(2)危機管理	①危機管理体制の整備	・危機管理マニュアルの徹底	・研修を持ち、危機管理の共通理解ができたか	B	●携帯・スマートフォンに関する生徒への講演会を行った。 ●年度当初に校則等の見直し点検を行い、指導の一貫性について確認した。 ●避難訓練は実施した。また、災害時のお迎え確認カードを作成し学校での保管をしている。しかし、保護者や地域と連動した携帯までには至っていない。 ●学期初めやテスト期間中にはPTAの協力も得て立哨指導をするなど、登下校の安全に力を入れた。 ●PTAと連携し、榛原夏祭りや十日戎の巡視を行った。 ●県、市カウンセラーや特別支援アドバイザー、中央児相、警察等々と連携し、特別な配慮を要する生徒に対応した。	○教職員の危機管理能力を高めるための研修と生徒に課題や問題点を考えさせる機会を持つ。 ○教員の指導力向上を目指し、各自が生徒指導に関わる研修（いじめ・体罰防止、不登校支援等）に参加する体制づくりをする。 ○災害時の訓練として、家庭や地域と連動した取り組みを進める。 ○県SCの有効活用が出来た。
			・生徒指導体制の構築	・生徒指導マニュアルの見直しを行い、改善できたか	A		
		②安全指導の徹底	・全校体制での取組の実施	・避難訓練を複数回行えたか	B↓		
			・日常的な取組の実施	・日常的に安全意識を高めるよう取り組んだか	A		
		③家庭や関係機関との連携	・家庭との連携	・PTAや地域と連携し、取組を進めることができたか	A		
			・関係機関との連携	・関係機関との連携を強化することができたか	A↑		
	(3)保健管理	①保健指導	・学校保健安全計画の立案	・学校保健安全計画は適切に作成されているか	B	●計画に基づいて実施することができた。 ●いじめアンケートを実施し、年間2回教育相談機関を設けることができた。今後も継続をしていきたい。 ●市SCや特別支援教育巡回アドバイザーにも協力いただいた。生徒への対応についても指示を受け、効果的な対応ができています。 ●養護教諭を中心にして生徒の心身の健康相談に努めた。 ●保健センターと連携し、「赤ちゃんとのふれあい体験(2年)」や歯と口の健康に関する取組(ポスター、標語)出品を継続した。	○今後も、生徒の心身の課題に応じた指導を進めていく。特にアレルギー疾患のある生徒への対応について研修する必要がある。 ○SC、養護教諭、人権教育担当、不登校支援担当等が連携して取組に当たる。 ○市適応指導教室と定期的な情報交換を行う。 ○学校保健委員会の開催に向け準備を進める。
			・保健指導の充実	・生徒の健康状態や心身の課題に応じた指導ができたか	A		
		②心のケアや健康相談体制の整備	・学校カウンセラーの活用	・カウンセラーと連携して生徒の指導にあたったか	A		
			・健康相談活動の充実	・養護教諭を中心とした健康相談活動を進めたか	A↑		
		③関係機関との連携	・学校医や保健センターとの連携	・学校医や保健センターと連携した取組ができたか	A↑		
			・関係機関との連携	・関係機関との連携を強化することができたか	A↑		
	(4)保護者・地域との連携	①学校情報の発信	・Webページの活用	・学校行事や学校からの情報をwebページを通じて、積極的に発信できたか	A↑	●学校のWebページの更新を進めている。●保護アンケートから、78%が学校からの情報発信を活用していただき好評である結果が出た。 ●紙媒体での案内文の配付と並行して、メールやWebページへの掲載による情報発信を行うなどの取組を継続することができた。 ●オープンスクールにおいて、PTA研修部の企画による「人権講座」を継続して開催している。授業参観については3学期は実施できなかった。 ●ゲストティーチャーとして、音楽科邦楽授業(尺八)・学年人権講演会・職場体験等で地域の方の支援をいただいている。 ●「赤ちゃんとのふれあい体験事業」で、乳幼児の保護者に協力いただいている。 ●地域貢献は、吹奏楽部の活動にとどまっているが、地域からは好評である。 ●小学校とは、年3回の連絡会をもち、小中連携した取組を展開できた。また、小学6年生への入学前の学校見学会を実施した。幼稚園・保育所との連携は2年生の職場体験学習にとどまっている。 ●榛生昇陽高等学校と合同の榛原クリーン作戦は実施できなかった。福祉体験学習(1年)においても榛生昇陽高校と取組みを継続している。 ●年3回開催することができた。	○学校HP担当を置き、情報を日々提供できている。 ○メール配信を有効利用が来ている。全世代加入を呼びかけてはいるが完全ではない。 ○参観授業後の学級懇談会を次年度より実施している。 ○外部人材の活用を模索し、活用増を目指す。 ○生徒会を主体とした活動へ拡大させたい。 ○幼稚園・保育所との連携の強化、高等学校とのさらなる連携に努める。 ○学校の情報(学校だより)を評議員にも提供している。
			・情報発信システムの活用	・メール発信システムを活用して、保護者への情報提供を効果的に行ったか	A		
		②学校(授業)公開	・オープンスクールの活性化	・オープンスクールの実施方法を工夫することができたか	B		
			・授業参観の実施	・授業参観を年2回以上実施できたか	A		
		③家庭・地域との連携	・保護者・地域住民の学校教育への参加	・保護者や地域の力を学校教育に生かす機会が与えられたか	B		
			・生徒の地域活動への参加	・生徒が主体的に取り組む地域貢献活動ができたか	C		
		④校種間連携	・異年齢間の交流	・保・幼・小と連携した取組ができたか	B		
			・高等学校との連携	・高等学校と連携した取組が継続・発展できたか	B		
		⑤学校評議員の活用	・学校評議員委員会の開催	・学校評議員委員会を定期的に開催できたか	A		
		(5)教育環境整備	①施設設備の有効活用	・空き教室の利用	・空き教室を学習活動に活用することができたか		
・学校施設の有効活用	・学校の施設を授業以外でも活用することができたか(目的外使用)			A			
②教材・教具の整備	・教材・教具の整備・活用状況		・必要な教材・教具を計画的に整備できたか	A			
	・図書・副読本等の整備・活用状況		・図書室の本や副読本(なかま、道徳)を活用したか	B			